

山城上遺跡（第三次調査）について

山城上遺跡は、市内南西部の大東地区、大袋新田（おおふくろしんでん）にあり、面積は約八百平方メートルあります。その第三次調査をことし一月三十一日から三月十五日まで行いました。

この遺跡は、入間川右岸の武蔵野台地と低地の境に立地しています。また、古代の主要路にあたる「東山道（とうさんどう）武蔵路」の推定ルートに近く、周辺には、入間川の対岸に、八幡前・若宮遺跡といった駅家（うまや）・休憩施設、馬の交換を行った場所」と推定される遺跡があり、それらに関連する遺跡と見られています。そして、入間郡衙（ぐんが）推定地と考えられる霞ヶ関遺跡もあります。

今回の調査では、「風字硯（ふうじいん）」と呼ばれるすずりが一点、住居跡から出土しました。このすずりは完全な形で発見され、平安時代ごろ（九世紀）の物と考えられます。この時代、すずりを使用できる人は限られていました。また一般的に、都や地方役所などの関連遺跡から出土しています。このようなすずりが関東地方で、しかも住居跡から出土した事例はほとんどありません。今回の出土例は、とても注目される事例といえます。

さらに、寺院の屋根に使用された瓦や、漆の運搬容器と考えられる須恵器のつぼも出土し、これらの遺物から、入間郡衙などの官衙施設（役所）との関連性が想定されます。

前記の立地条件を備えた山城上遺跡は、今回の調査で出土した遺物の特色から、官衙と密接に結びついた重要な遺跡であると考えられます。



風の字に似ているので風字硯

TV わが街川越 番組ガイド

編集後記

どんぐり

市外に行って川越の写真などを見る機会があると、見慣れた風景や資料でも、なぜか気持ちが引かれてしまいます。先日、江戸東京博物館で行われていた「新シルクロード展」に出かけました。日本初公開の木製ミイラ、唐時代の中国の壁画などが並ぶ館内は観客で大混雑でした。企画展に続き常設展へ行くと、吹き抜けの展示室にある日本橋を渡った先に江戸図屏風（びょうぶ）がありました。市立博物館にも複製品があり何度も見ているのに、川越城や三芳野天神を見つけて時間をかけて見入ってしまいました。ほかにも新河岸川の舟運の写真や小江戸と称される説明にも自然と足が止まりました。ふだんはあまり気にしていませんが、市外で川越を見るとうれしくなる自分を川越人だと実感しました▶伊佐沼では、こしもハスが花を咲かせています。梅雨空に大きな緑の葉とピンクの花、とても趣があります。ぜひご覧ください。



市内の代表的な水辺スポットといえば伊佐沼。7月には、ハスを楽しむことができます

水辺で味わう「涼」
暑い時に、涼しさを感じさせてくれる水辺。伊佐沼や仙波河岸史跡公園など、市内にある水辺スポットを紹介します。安比奈親水公園で行われた小江戸川越花火大会の様子も、合わせてお伝えします。

テレビ埼玉（38ch）

8月6日（土）／午前9時30分～9時40分

8月7日（日）／午後5時30分～5時40分

川越ケーブルテレビ（15ch）

8月6日（土）～19日（金）

午前9時20分～・午後0時45分～・午後4時20分～・午後5時45分～・

午後8時45分～（金～日曜日）・午後10時50分～（月～木曜日）

テコケーブルテレビ（9ch）

8月22日（月）～28日（日）

午前6時30分～・午後0時30分～・午後4時30分～・午後7時30分～・午後9時30分～

*変更になることがあります。あらかじめご了承ください。